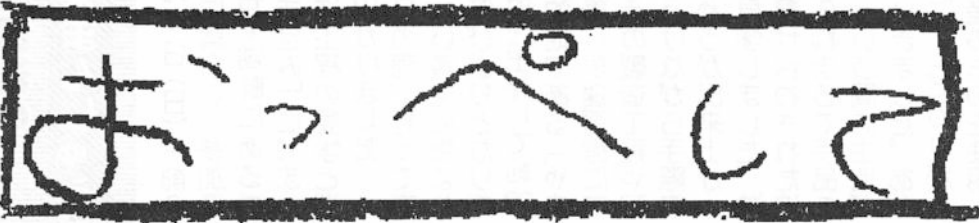


平成20年3月21日発行

事務局 飯能市生活安全課内
☎ 973-2111 内線 178



飯能消団連の学習会

「もっと知りたいごみのついで」

2008年3月9日

美杉台公民館にて

プラスチックの資源化が始まり半年。「飯能市のごみの現状と課題をもっと知って私たちにできることを考えよう」とクリーンセンター職員、奥さんに以下のお話を伺いました。

ごみを出さない循環型社会へむけて、クリーンセンターも処理だけでなく、ごみ減量への対策が求められている。目標数値は、収集・搬入量で2000年度の10%減の22500ト、リサイクル率30%。2006年度のごみ量28000トは飯能市庁舎7個分で1人1日900g。2000年まで増え続け以降2006年まで人口は減ってきているが量は減っていない。2006年度の費用は10億7千万円、1人当たり年13000円。2007年度は27000トを切りそう

で、プラスチックの資源化が始まりリサイクル率は30%を達成する見込み。市では電動生ごみ処理機への補助・マイバッグキャンペーン・リユース品即売会・資源回収の補助などを行っている。

焼却炉は、1998～99年22億円を掛け補修と細かい灰を集めるフィルタを設置した。焼却温度900度の50ト炉が2基あり交互に10～14日稼動。24時間交代制で委託管理している。灰は熊谷のセメント工場に有価(年8千万円)で引取ってもらっている。

に埋め立てている。プラスチックはプラスチック製品やペレット(固形燃料)などにしている。紙4種類は古いもの・多少汚れているものでも良いが防水紙・感熱紙・合成紙・シール・窓あき封筒のセロハン・ぬれている物・石鹼等の臭いが付いた物等は除いてほしい。今後はごみの有料化・生ごみの資源化(バイオマスを利用してメタンガスを発生させる)・資源ごみ分別の受け皿作り・2025年にはクリーンセンターの建て替えなどを検討している。

衣料品はリユース(海外に輸出が多い)するのでボタンなど取らず50x50cm以上の物でも良い。蛍光灯・乾電池・水銀体温計は北海道の再生事業者へ。粗大ゴミは不燃ごみと共に破碎し磁選機・比重による選別機にかけたのち、破碎不燃は寄居にある県の処分場

した。
お話の後次のような質疑応答がなされました。
・納豆のパックなどを洗う事は水の利用を増やすし、川の汚染に繋がるのでは？
・ふき取れる汚れは、資源回収には出せない布でふき取るという。
・生ごみからメタンを発生させるには、施設やエネルギーが必要になるのではないかと。堆肥化は全体では難しいが、地域単位で始められるという。
・煙突の上に雲が出来ていることがあるが安全なのか？
・ダイオキシンの発生が懸念される焼却炉の温度が下がる点火時などの排気調査はしているのか？月1回の環境調査では不安。
・資源ごみはなるべく集団回収とスーパやコンビニの回収BOXへ。
・市内での最終処分が理想。寄居の処分場近隣の方は迷惑だと思ってるのでは？

新形清田連の

各業まんじゅうの製造工程見学会

去る11月12日(日)午前9時に市役所に集合し、参加者24名にて名栗湖畔にあるお休み処「やませみ」におまんじゅうの製造工程の見学と湖畔の散策に出かけました。

当日は前日の雨と打って変わって清々しい青空に恵まれて絶好の散策びよりとなりました。市役所を出発して約30分ほどで目的地である「やませみ」に到着し早速厨房にておまんじゅうの製造工程や配合の説明をうけながら手際良くおまんじゅうが出来上がっていくのを見学しました。独自の配合で混ぜ合わされた液が粉に掛けられまるで手品のようにあつという間に生地が仕上がっていました。あんこの材料にもこだわりがあり、北海道産のものを使用しているとの事でした。流れ作業で次から次へと形となり蒸し上げられていきました。市からの依頼もあり各種のイベントには必ずといってよいほど出店され、多いときには2千個も製造されるという事でした。

見学のあとお昼までの間湖畔の散策に出かけました。紅葉にはまだ少し早いものの

おいしい空気をすいながらの散策を楽しむ事ができました。その後お店に戻り、昼食をとったあと「やませみ」についての説明をうけました。

現在「やませみ」では9名の方々が働いておられ、手作りを基本として各種のおみやげが販売されており、食事もとる事ができます。お昼のお弁当も、良く工夫されたとても愛情のこもった紅葉弁当をいただく事ができました。出すものはすべて当日製造という事でイベントへの出店の際は朝早くから仕込みに入られるという事でした。まんじゅう製造をはじめられた当初は、あちこちに勉強に行かれたり、東京駅に販売に行かれたりもしたそうです。

ただ、継続していくのはなかなか大変という事でした。お店で販売されている商品は子供さんでも買える金額でという事で500円一枚あればどれも購入できるように値段設定をされているという事で、参加者も思い思いにおみやげを購入し、おまんじゅうのおみやげも手にして帰路につきましました。地元であつてもまだまだ知らない

らない事が沢山あると思いましたが、これからも機会があればこうした見学会を計画し多くの方に参加していただければと思います。帰り道に名栗

埼玉県西部地区消費者団体交流会の報告

地球温暖化と私たちの生活

こと2008年2月28日に川越地方庁舎で行われた埼玉県西部地区消費者団体交流会及び講演会に参加しました。講師に淑徳大学コミユニケーション学部教授の横山裕道氏をお招きし、温暖化は私たちに何をもちたらすのでしようかということでお話を伺いました。

◇今地球におこっていること
サンゴ礁の白化現象(サンゴが死ぬということ)が10年前から始まっています。サンゴは温暖化を受けやすい生き物なのです。また欧米での熱波、洪水、干ばつなどに止まらず、アマゾン(川幅10キロ)の大渾水(2005年8月~10月)や、氷河が溶ける北極海・南極・チベット高原・キリマンジャロ・アルプスの山々など、お気づきの方も多いと思います。

観音に立ち寄り、銀杏ひろいをしてきました。道いっぱいに銀杏が落ちており、帰りのバスの中は銀杏の香りがただよっていました。

記憶に新しいところでは、ハリケーン・カトリーナによるアメリカ災害史上最悪の被害。更にオーストラリア大陸の大干ばつは、私たちの食卓にまでその影響が押し寄せてこようとしています。私たちの暮らしが温暖化を促進していることは周知の事実であり、対策を急がねばならないでしょう。

◇気候変動がもたらす未来は
①平均気温の上昇、②国が消える(海面上昇による浸水・水没の危機)、③進む砂漠化や自然破壊、④食料は、そして水はどうなるでしょう。日本では2100年にはリンゴの生産適地は北海道に、ミカンの適地は内陸部や日本海側になるとされ、海水温度の上昇は漁獲量の減少に跳ね返ります。気温1度の上昇で水不足に陥る人は、世界で9億人増えるといわれ

ています。⑤蚊が媒介する感染症の脅威(マラリア、黄熱病、デング熱、西ナイル熱など)、⑥台風やハリケーンの巨大化、常態化。

◇どう対処したらよいのでしょうか

持続可能な社会は低炭素社会です。この中、原子力発電は安全性の問題(日本は地震が多い)や放射性廃棄物による影響、建設に膨大なエネルギーを要し、維持管理も大変です。全電力の3割が原発によるというのではリスクが大きすぎるのではないのでしょうか。
国民運動の「チーム・マイナス6%」では、冷暖房温度の調節、蛇口はこまめに閉める、コンセントをこまめに抜くなどを提唱しています。
風力発電や、太陽光発電、バイオマスなどの自然エネルギーを極力利用し、地元でできた食べ物を使い、ゆつたり生きようという考え方が国内外で少しずつ浸透してきています。というお話でしたが、太陽光発電技術の高い日本でもっと安くこれを家庭に普及させ、電力を自前で作れるようにしたり、地産地消のお買い物、ゴミを減らす、出来ることは沢山あるのですね。